

1. 会議の開催

- ① 評議員会 2 回、理事会 2 回を実施した。

2. 機関誌の発行

- ① 年齢および習熟度に合わせた『不二一般版』・『不二中高版』・『不二小学上級版』・『不二小学初級版』・『ぺんの力』を毎月発行、研究誌『書学』を継続発行した。

- ② 『不二』各誌の更なる充実を図り、伝統書道の継承、発展に貢献した。

《令和 6 年度各誌発行部数》

『不二一般版』	74,470部
『不二中高版』	53,620部
『不二小学上級版』	86,600部
『不二小学初級版』	55,250部
『ぺんの力』	38,780部
『書学』	1,650部
年間発行部数	310,370部

- ③ 新たな手本執筆者を育成すべく、一般版とぺんの力においては、毎月、月例審査員より提出される手本作品を審査の上、手本として採用。初級版・上級版・中高版においては、新規手本執筆者の採用を行った。
- ④ 令和 6 年度課題作成に先立ち、月例審査員にアンケートを実施。版ごとに意見を集約し、不二誌各版の内容に反映した。
- ⑤ 用紙代、印刷費、送料等の高騰により、会員の負担増となる会費の値上げを回避すべく、以下を実施した。
1. 各誌の総ページ数の見直し、編集過程の効率化（社内DTP化・DTP作業発注先の見直し、印刷所の見直し等）、適正印刷部数の算出（毎月の余剰印刷の減少）を行い、不二誌制作費の削減に取り組んだ。
 2. 会誌の追加注文の送料については、会員各位への負担をお願いした。
 3. 初級版・上級版・中高版の会員を対象とし、段級や展覧会スケジュール等の管理の為に役立つ「2025年度 不二書道手帳」を、ホームページからのダウンロード形式で発行し、4月号付録として会員各位に贈呈した。ダウンロード形式にすることにより、会員の利便性の向上と、印刷費および送料の削減を図った。

3. 月例競書審査会の実施

- ① 令和6年度も引き続き、会員の段級認定を行うため、毎月1回実施した。
- ② 審査会は、金曜日（初級版）、土曜日（上級版・中高版）、日曜日（一般版・ぺんの力）の3日間で、会場を東京都千代田区にある書道学会本部とし、実施した。
- ③ 公正な段位および級位認定を行う審査実施のため、引き続き各地の優秀教場・教室長を地方審査員として迎え全国的な連帯を図った。
- ④ 会員より出品された優秀作品を誌上および本会ホームページにおいて発表した。最優秀作品に関しては、引き続き、書道作品は本部ビル1階ショーウィンドウに、硬筆作品は入口通路のショーケースに展示をし、会員の意欲向上を図った。
- ⑤ 延着作品に対する取り決め
郵便の土曜配達・翌日配達の廃止などの影響により、出品締切日に間に合わない作品が増加。それにより、作品仕分け業務、審査会業務に負担が生じたことから、競書の締切を厳格化、延着作品については審査対象外とし、電話・ハガキで注意喚起を行った。その上で、審査を希望する会員に対しては、延着審査料を請求し、審査を行った。

4. 会友試験の実施

- ① 『不二一般版』第68回会友試験を令和6年11月に実施した。
・合格者累計数 753名
- ② 『ぺんの力』第57回会友試験を令和6年11月に実施した。
・合格者累計数 219名

5. 会員登録の実施

- ① 『不二初級版』においても同様に会員登録（バーコード出品券申し込み）を実施し、全ての会員に対し、厳正な段級認定、管理を行った。また、コンピュータによる段級管理を継続実施し、インターネットによる段級位の発表を引き続き行った。インターネットでの段級位発表の表示方法については、不二誌上の成績発表表示に合わせ、さらに最新保有段級の表示を追加するなど、より分かりやすくするための機能改修を行い、国内・海外の会員等に対し学習のサポート体制の強化を図った。

6. 表彰・段級認定の実施

① 令和6年度優秀教場・教室長表彰式を、令和7年4月3日（木）如水会館に於いて開催し、表彰状を授与した。

令和6年度の表彰対象者は教場長32名、教室長219名の併せて251名。内、新規優秀教場長1名および、新規優秀教室長8名の計9名には表彰状に加えて、標札を発行し贈呈した。

② 各教場・教室長推薦の下、優秀教室会員表彰を行った。表彰者は学生、一般の計186名。その他、段級証明書860通、段級認定書49通を発行した。

7. 検定試験の実施

① 第64回全国書道検定試験

《師範試験》 令和6年5月23日（木）

《司教・助教》自宅試験（春）令和6年5月18日（土）～6月3日（月）

《司教・助教》自宅試験（秋）令和6年10月12日（土）～10月28日（月）

師範合格者	1名
司教合格者	8名
助教合格者	16名
合格者総数	25名
その他に書学院師範合格者	67名（書道）
これまでの師範取得者累計	16,896名

② 第44回全国ペン硬筆検定試験

《師範試験》 令和6年5月23日（木）

《司教・助教》自宅試験（春）令和6年5月18日（土）～6月3日（月）

《司教・助教》自宅試験（秋）令和6年10月12日（土）～10月28日（月）

師範合格者	0名
司教合格者	1名
助教合格者	7名
合格者総数	8名
その他に書学院師範合格者	18名（ペン）
これまでの師範取得者累計	1,369名

③ 級位認定書道検定試験

第96回 令和6年5月18日(土)～6月3日(月)

第97回 令和6年5月18日(土)～6月3日(月)

上級認定者 6名

中級認定者 4名

初級認定者 1名

④ 級位認定ペン硬筆検定試験

第86回 令和6年5月18日(土)～6月3日(月)

第87回 令和6年10月12日(土)～10月28日(月)

上級認定者 5名

中級認定者 5名

初級者認定 1名

8. 文部科学省認定社会通信教育の実施

① 通信教育にかかわる業務をデスクトップ上の桐システムから、クラウド上のセールスフォースに移行。事務の効率化を図り、業務拠点を東京・神田から静岡・伊東に移行した。

② 文部科学省認定講座

・「書道基礎科講座」「書道専攻科講座」「ペン習字基礎講座」
「ペン習字教育講座」「篆刻入門講座」の5講座を継続開講した。

③ 併設講座

・「速習ペン字講座」「写経入門講座」の2講座を継続開講した。

④ 学習方法

通信講座の受講者には、一括して教材を配布し、提出された課題の清書作品は講師の添削・講評を付して採点結果を返送。各講座の所定の課程を修了した者には、文部科学省認定通信教育修了証を授与。

⑤ 年間受講者数

書道基礎科講座 169名

書道専攻科講座 36名

ペン習字基礎講座 191名

ペン習字教育講座 33名

篆刻入門講座	8名
速習ペン字講座	4名
写経入門講座	11名
合計	452名

⑥ 受講修了者表彰

- ・講座受講修了者の中で、成績優秀者を対象に文部科学大臣賞候補の選考を行い、4名の表彰が決定した。

* 文部科学大臣賞受賞者 4名

⑦ 生涯学習インストラクター

- ・生涯学習2級インストラクター1名を社会通信教育協会の人材バンクに登録。現在まで1級延べ299名、2級延べ629名。

9. 指導者育成事業

① 神田書学院を継続開講した。

I期受講生数 406名 II期受講生数 390名 III期受講生数 397名
受講生合計 1,193名

② 夏季講座・冬季講座の開講

夏季講座を令和6年8月6日(火)より令和6年9月7日(土)まで実施した。参加受講生は188名となった。

冬季講座を令和6年11月12日(火)より令和7年2月2日(日)まで実施した。参加受講生は89名となった。

③ 令和6年度書学院卒業式・謝恩会を令和7年4月26日(土)如水会館に於いて挙行了した。

卒業作品を展示する第48回書作展を開催した。展示作品の中から優秀作品として書学院院長賞が5点選出され、卒業式に於いて表彰を行った。会場展示だけでなく、360度カメラを使ったWeb展も開催した。

※第48回 書作展 令和7年4月25日(金)～4月27日(日)の3日間

会場：神田書学院

令和6年度卒業生87名 うち師範取得者85名

④ プライベートレッスン

多様化するニーズに合わせて、マンツーマンの完全プライベートレッスンを提供した。

- ⑤ 講師の新規採用
講師として、新たに4名の先生を迎えた。ご逝去された先生の特設科クラスの受講生が学びの場を失わないよう新規講師への講座の引き継ぎを行った。また、新規講師は、まず、各クラスの講師助手を経験の後に、独立して講座を担当することとし、師範コースの講師陣の充実を図った。
- ⑥ 特設科クラスの新設
各期において特設科を新設し、特に師範科修了生に対して特設科受講の促進を図った。
- I 期 1 講座新設
II 期 2 講座新設
III 期 3 講座新設
- ⑦ SNSの活用
インスタグラムに書学院の行事、日々の授業の様子などをアップし、広報の一環として継続活用した。
- ⑧ 体験入学の有料化
2022年度より有料化した体験入学を引き続き継続。有料化することにより、参加者は、入学意欲の高い方が増え、体験入学参加者の入学率は増加している。体験入学に参加した期に限って、入学金に体験料を充当できることとし、入学希望者の意志決定に繋げている。
- ⑨ 受講管理システム「桐」から新システムへの移行
会員に対するサービスの迅速化、情報管理の安全性の観点から、これまで書学院で使用していた受講管理システム「桐」の情報を、会員管理、通信教育の会員管理用として運用を始めている新システム「セールスフォース」にデータを統合し、システムの移行を進めた。

10. 公募展の開催

(ア) 第46回全国公募千字文大会（共催 日本書道藝術専門学校）

令和6年9月21日から令和6年9月23日の会期で日本書道藝術専門学校ならびに東洋文化不二研修所にて展覧会を開催した。次回、第47回より会場を神田書学院に変更する。

特別賞受賞作品をホームページならびに本会発行の「不二一般版」・「ぺんの力」・「不二中高版」・「不二上級版」「不二初級版」に掲載し、作品を広くご鑑賞いただくとともに、展覧会場を360度観覧することができるWEB展を開催した。

- ① 会 場 日本書道藝術専門学校・東洋文化不二研修所
- ② 会 期 令和6年9月21日(土)～23日(月)
- ③ 表 彰 式 令和6年9月22日(日)
於日本書道藝術専門学校
- ④ 褒 賞 文部科学大臣賞、静岡県知事賞、伊東市長賞他
- ⑤ 総出品点数 8, 352点

【毛筆の部】6, 117点

特別賞45点 特選892点 優秀1, 216点
秀作2, 151点 佳作1, 833点

【硬筆の部】2, 421点

特別賞25点 特選306点 優秀443点 秀作773点 佳作644点

【篆刻の部】24点

特別賞0点 特選4点 優秀5点 秀作9点 佳作6点

(イ) 書初不二誌上展の実施

- ① 審査会 令和7年1月19日(日)
- ② 特選作品および成績を『不二』3月号誌上、本会ホームページにて発表した。

③ 出品点数 4, 530点

➤ 【小学初級の部】 1, 277点

特選 220点 金賞 289点 銀賞 346点 銅賞 382点

➤ 【小学上級の部】 1, 545点

特選 268点 金賞 350点 銀賞 465点 銅賞 462点

➤ 【中学・高校の部】 710点

特選 136点 金賞 163点 銀賞 212点 銅賞 199点

➤ 【一般の部】 862点

特選 156点 金賞 206点 銀賞 263点 銅賞 237点

➤ 【ぺんの部】 136点

特選 28点 金賞 30点 銀賞 40点 銅賞 38点

(ウ) 第74回書道學會展

令和6年度は以下の通り開催した。

- ① 会 場 第一会場／第二会場 東京都美術館 2階 第2・3展示室
- ② 会 期 令和7年1月4日(土)～10日(金) ※6日(月)は休館日
- ③ 授 賞 式 令和7年1月5日(日) 於東京都美術館講堂
- ④ 褒 賞 内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、中国大使賞、東京都知事賞 他
- ⑤ 出品点数 578点(公募+役員)
- ⑥ 入 場 者 数 2, 417人

- ⑦ 作品鑑賞会 令和7年1月9日(木)、午前と午後の2回開催し、19名が参加した。

【第1会場】

公募出品数 185点

(第1部65点・第2部94点・第3部17点・第4部2点・第5部7点)

展示対象点数 374点(公募174点+役員出品200点)

【第2会場】

公募出品数 193点

(第1部59点・第2部108点・第3部22点・第4部4点)

展示対象点数 178点

本会発行の「不二一般版」・「書学」令和7年2月号に於いて役員、一般公募の優秀作品を特集した。ホームページでは、作品を紹介するとともに、展示会場の様子を360度観覧することができるWEB展を開催した。

物価高に伴い印刷費等が高騰する中、出品料を維持し、出品者の負担を軽減すべく、昨年に引き続き、無料で配布している展示目録のDTPを内製化するとともに、ネットプリントを利用し、製作費および印刷費の削減を行った。

(エ) 第74回全日本学生書道展

令和6年度は以下の通り開催した。

- ① 会場 東京都美術館 2階 第4展示室
- ② 会期 令和7年1月4日(土)～10日(金) ※6日(月)は休館日
- ③ 授賞式 令和7年1月5日(日) 於東京都美術館講堂
- ④ 褒賞 文部科学大臣賞、中国大使館賞、東京都教育委員会賞他
- ⑤ 出品点数 2,816点
(内小学生1,486点+中高生1,330点)
- ⑥ 展示点数 1,677点
(内小学生1,107点+中高生597点)
- ⑦ 入場者数 3,743人

本会発行の「不二中高版」・「不二上級版」・「不二初級版」令和7年1月号に於いて優秀作品を特集した。ホームページでは、作品を紹介するとともに、展示会場の様子を360度観覧することができるWEB展を開催した。

また、特別賞作品の一部は、再表装の上、広島県立美術館で行った第38回不二現代書展にて特別展示を行った。

物価高に伴い印刷費等が高騰する中、出品料を維持し、出品者の負担を軽減すべく、昨年に引き継ぎ、無料で配布している展示目録のDTPを内製化するとともに、ネットプリントを利用し、製作費および印刷費の削減を行った。

(オ) 第38回不二現代書展

大阪市立美術館が大規模修繕工事のため、広島県立美術館にて初開催した。

- ① 会場 広島県立美術館 県民ギャラリー
- ② 会期 令和7年3月18日(火)～23日(日)
- ③ 授賞式 令和7年3月22日(土)
於 広島県立美術館 講堂
- ④ 褒賞 文部科学大臣賞、広島県知事賞、広島市長賞他
- ⑤ 出品点数 372点
 - ・ 公募出品点数 242点(第1部155点・第2部87点)
 - ・ 役員出品点数 130点
(本年度審査員6点・審査員74点・無鑑査50点)
- ⑥ 展示点数 326点
 - ・ 公募出品点数 233点(第1部146点・第2部87点)
 - ・ 役員出品点数 130点
(本年度審査員6点・審査員74点・無鑑査50点)
- ⑦ 入場者数 955人
- ⑧ 作品鑑賞会 令和7年3月22日(土)に開催し、34名が参加した。
- ⑨ 特別展示 1月に開催した第74回全日本学生書道展の特別賞受賞作品14点を再表装した上で、不二現代書展の展覧会場にて特別展示を行った。例年、学生展は東京都美術館での展示のみだったが、広島県にて学生作品を展示したことにより、関西方面の会員の意欲向上に繋げた。

「不二一般版」・「書学」、2025年4月号に於いて優秀作品と共に特集した。ホームページでは、作品を紹介するとともに、展覧会場の様子を360度観覧することができるWEB展を開催した。

物価高に伴い印刷費等が高騰する中、出品料を維持し、出品者の負担を軽減すべく、昨年に引き継ぎ、無料で配布している展示目録のDTPを内製化するとともに、ネットプリントを利用し、製作費および印刷費の削減を行った。

11. 二百万巻寫經推進事業

- ① 写経塔・筆塚供養祭の開催
令和6年10月6日(日) 東洋文化不二研修所に於いて開催した。
- ② 令和7年3月31日現在 納経巻数 1,560,978巻

12. 書道教育推進事業

- ① 日本書道藝術専門学校校長の主導により推進されてきた「書道教育特区」は、その教育成果、実績が認められ、平成21年度より「書道科書道」の授業が全国展開されるに至った。本会でも全国展開を受けて、引き続き静岡県内小学校7校への講師の派遣支援を行った。

13. 新和様・漢字造型書作家協会の活動

- ① 会報40号の発行
第36回色紙展の出品作140点を収録し、会員に配布した。
- ② 第36回 新和様・漢字造型書作家協会 色紙展
令和6年8月30日（金）より9月1日（日）まで、神田書学院に於いて開催。
色紙作品140点を展示した。
- ③ 第30回 新和様・漢字造型書作家協会 選抜展
令和6年8月6日（火）より12日（月）まで、東京芸術劇場に於いて開催。
新和様作品または漢字造型作品88点を展示。
新和様・漢字造型書作家協会会員が日頃研究を行っている新和様書と漢字造型書への研究成果を発表した。
「書学」令和6年9月号において特集した。
- ④ 新和様・漢字造型書作家協会 選抜展の会場である東京芸術劇場が改修工事に入るため、令和7年度の選抜展の開催を中止し、新和様・漢字造型書作家協会の活動および展覧会を休止とした。

14. 第15回「漢字造型」と「傳統の寫經」展

- ① 会期 令和6年9月17日（火）～22日（日）
- ② 会場 東京鳩居堂画廊
- ③ 展示点数 35点（ほか学会の写経資料を展示）

15. 伊豆川奈東洋文化不二研修所

- ① 令和4年度より場面を限定して供用を再開している。令和6年度も、第46回全国公募千字文大会の小学部特選作品の展示、供養祭などに利用した。

16. 講習会・書道展の後援協力

- ① 全国の書道展・講習会に後援協力した。本年度後援件数 7件